

大学を卒業するということ

学長 竹葉 剛

卒業生のみなさん、卒業おめでとう。皆さんが、本学で、講義や演習、実験や実習、そして卒業（修士）論文の作成に向けてがんばったことは、人間の基本的な能力として、皆さんの中に残っています。また、大学生活の4年間、あるいは修士課程の2年間、クラブ活動、アルバイト、就活など、皆さんが真剣に取り組んだことも、皆さんの中に貴重な体験として残っています。自信をもって、社会での新しい課題に挑戦してください。そして、多くの経験を積んで、周りから信頼される社会人となってください。



大学を卒業するということは、小・中・高・大学と長い時間をかけて教育を受けてきた「社会人への準備段階」を終了することであり、親への依存を脱して自立した社会人になることであり、本当の意味での「おとな」になることです。そのため、まずは、これまで皆さんを見守ってくださったご家族の方に感謝の気持ちを伝えましょう。その上で、自立した社会人になることの重みを十分に自覚して、新たな決意を固めていただきたい。

さらに付け加えると、皆さんは「京都府立大学の卒業生」だということです。皆さんが意識するかどうかにかかわらず、皆さんは京都府立大学の卒業生として社会から観察され評価されます。本学を卒業したことに誇りをもっていただき、本学の名誉をさらに高めていただきたい。

皆さんが学んだこの京都府立大学は、京都府の出資する公立大学であり、その運営経費の約3分の2は、京都府の一般財源、すなわち京都府民の税金で支えられています。本学は、国からの経常費国庫助成を受けていません。京都府は現在非常に厳しい財政状況にあります。その厳しい中で、毎年、府民の税金を府立大学に投入していただいています。それは、府立大学を卒業した皆さんが、これからの社会を築く中心になっていただきたい、そのように願うからに他なりません。それが、京都府民の願いであろうと思います。そのような京都府民の願いをしっかりとして受け止めていただきたい、と思います。

最後に、健康には特に気をつけてください。バランスのとれた食事と生活のリズムが大切です。十分な睡眠は、記憶を整理し、免疫力を回復し、心身の活力の源です。毎日決まった時間に就眠しぐっすり眠ることが、生活のリズムを保つために必要です。そして、もししんどくなったら、いつでも本学を訪ねて来てください。府立大学は、いつまでも皆さんを応援しています。

目次

卒業生に贈ることは	1	退職教員からのメッセージ	13
法人理事長・理事、部局長から	2	後援会理事長、同窓会長からのメッセージ	15
担任・卒業生のことは		平成21年度学長表彰者紹介②	15
文学部・文学研究科	4	学位（博士）取得者からのメッセージ	16
福祉社会学部・公共政策学研究科	7	桜楓講座（春の部）参加者募集	16
人間環境学部	8	追悼 - 京都府立大学元学長 四手井綱英先生	17
農学部	10	国際交流の取り組み	18
生命環境科学研究科	12	学位（博士）取得者一覧	20
平成21年度学長表彰者紹介①	12	トピックス	20

法人理事長・理事から

「卒業生の皆さんへ」

京都府公立大学法人理事長 荒巻 禎一

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

本日は、皆さんがこれまでの学業や研究等の生活に一区切りをつけて、人生の新たなステージに踏み出す、大切な節目の日であり、心からお喜びを申し上げます。

自然に恵まれたこの洛北の地で学業を全うされた経験は、将来、皆さん方が自分の歩んできた道を振り返られたとき、大きな思い出であり、何物にも替えがたい「財産」であったと感じられることではないでしょうか。

少子化が進行し、各大学を取り巻く環境が大きく変化する中で、多くの大学が転機を迎えているおり、平成20年4月、京都府立大学は、京都府立医科大学とともに京都府公立大学法人による運営となり、また、あわせて学部・研究科等の再編も行われるなど、皆さんの中には、これらの変化に戸惑われた方もあったかと思えます。

しかし、そのような中で、かねてからの課題であった大学キャンパスの整備が具体化し、数年先には、下鴨・精華地域をキャンパスとした新しい府立大学へと変わっていく予定です。

「アット・ホームな雰囲気」という大学の良き気風を今後とも守りつつ、新たな教育や研究に取り組んでいけるよう法人としても尽力していきますので、卒業生の皆さんには、どうか母校の今後の発展と飛躍のためにご支援とご協力をいただきますようお願いいたします。

景色の中で

京都府公立大学法人理事 築山 崇
(公共政策学部教授)

ご卒業おめでとうございます。春、旅心をそそられる季節になりました。そんな春には、ローカル線の旅が似合いますね。ゆっくりと移ろう車窓の景色と、その先にある見知らぬ街で出会う人間模様は、人の心が乾きがちな昨今、なんとも魅力的です。人と自然、人と人が近いところで通い合う関係が、生きていくうえで大切なものを与えてくれるからでしょう。グローバル化の波が圧倒的な力で、暮らしの隅々にまで押し寄せつつある現代だからこそ、ローカルな世界で出会うことができる価値がその輝きを増しているように思えます。卒業していくみなさんは、しばらくは、まわり

の景色を見る余裕もなく、特急列車に乗って目的地を目指しひた走ることになるのでしょうか。若さが可能にしてくれるそのスピード、エネルギーは、何ものに代えがたい貴重なものです。難路を進んでいくことで新しい力も育っていくことでしょう。それでも、時には過ぎ去った旅路の中で一瞬目に留まった風景を思い起こし、今ここにある自分を見つめるひと時も大事にして欲しいと思います。そんなとき、縁に包まれた母校という駅が、中継点としてお役にたてると思います。からだに気をつけて、どうかよい旅を!!

部局長から

突っ走らず、立ち止まって

教務部長 高原 光

卒業生の皆さんおめでとうございます。

学部あるいは大学院で、皆さんは、教養科目や専門分野における学問を修め、ますます成長され、社会人として、旅立たれることをたいへん嬉しく思います。

これから、皆さんは、新しい世界で、ますます活躍されることと思いますが、その過程では、好調、不調の波が訪れると思います。好調なときは、つい、足下を見るのを忘れがちで、突っ走ってしまうものです。そのような時こそ、ちょっと立ち止まって、問題がないか注意してみてください。

一方、不調のときは、多くのことが同時にうまくいかないことがよくあります。焦らずにじっくり一歩一歩進めてみると、道が開けていくように思います。そして、様々な情報に振り回されることなく、大学で身につけた確かな情報を選択する能力、論理的に考える力によって、先を見る目を持ってください。

皆さんが元気で活躍されることを祈っております。



「夢」に向かって

学生部長 木戸 康博

ご卒業おめでとうございます。

卒業生の皆さん、社会への第一歩を踏み出す時が来ました。本学において、学び、育んできた「夢」を実現するために、前途洋々たる未来に向かって、まさに第一歩を歩み始めたのです。

生涯に出会える人には限りがあります。これまでに出会った人たちに感謝し、出会えたことをこれからも大切にするとともに、異文化が理解できる広い心と奉仕の心で、さらなる出会いを求めて、世界に向かって飛び出して下さい。

常に情熱と誇りを持ち、それぞれの道の専門家であることを自覚し、スキルアップを怠ることなく、専門家として活躍されんことを祈念します。

師と仰ぐ心を

附属図書館長 山崎 福之

仰げば尊し我が師の恩
教への場にはにも早いくとせ幾歳
思へばいと疾としこの年月
今こそ別れめいざさらば

かつて卒業式で必ずと言ってよいほど歌われたこの歌も、今はほとんど聞かれなくなってしまいました。その背景には様々な要因があるのですが、「師」や「恩」という言葉が時代にそぐわないという感覚が支配的になってきたこともあるのかもしれません。

しかし、皆さんが府立大学で数々の学問を学び身につけることができたのは、それぞれの「師」に恵まれたからに他なりません。その「師」とは、教員だけとは限りません。図書館や事務局、生協の購買部や食堂の方々、構内の清掃業務に当たられた方々も、皆さんの日々の学びを支えて下さったかけがえのない「師」であり、先輩や同級生、時には後輩もまた、皆さんの心を育ててくれた「師」であったはずです。そうした周囲の人々からの有形無形の教えや諭しが「恩」と呼ぶべきものなのでしょう。

その「恩」を「仰ぐ」とは、心からの感謝の気持を胸に、至らぬ自分自身を顧みるということです。

どうか皆さん一人一人の「仰げば尊し」の心を忘れずに、これからの毎日を一日一日充実したものにして行って下さい。お元気で。

思い出の宝箱を胸に

事務局長 森本 幸治

御卒業おめでとうございます。新しい門出を心からお祝い申し上げます。

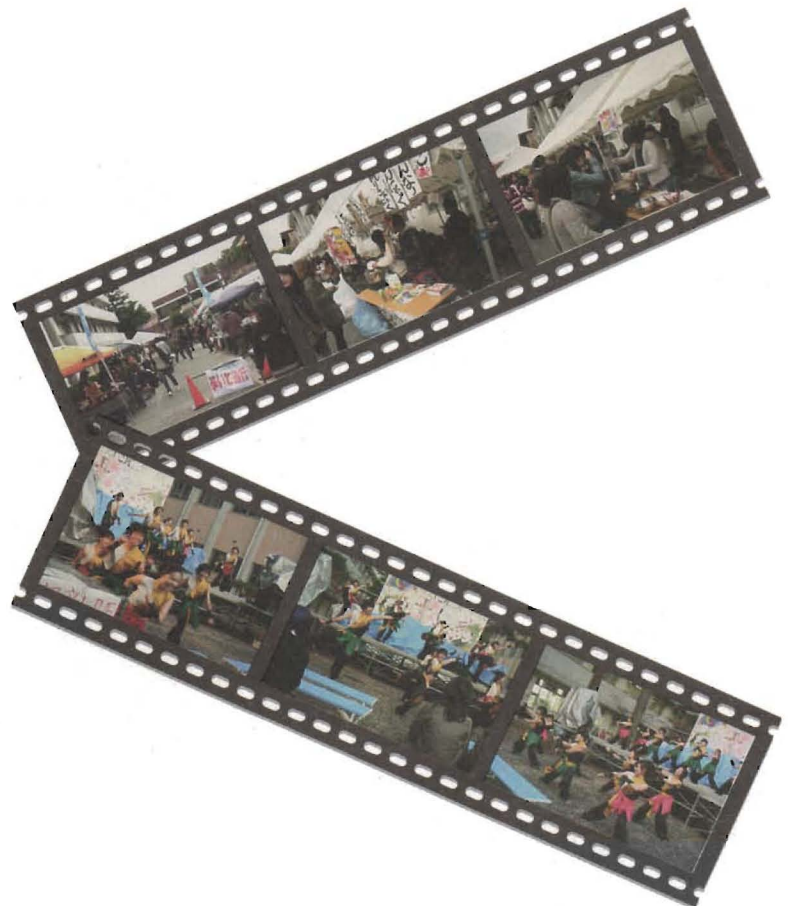
大学時代、皆さんは何に力を入れましたか。勉学、読書、バイト、部活、恋、惰眠？ どんなことでもそれはこれから長い人生を歩んでいく皆さんにとって、一生の宝物になるでしょう。

名実ともに大人へと変わっていく多感な時期、多くの先達や仲間と出会い、学び、遊び、恋愛をして過ごした時間は、決して忘れることがない自分だけの貴重な財産です。

社会に出ると、思いも掛けない壁にぶつかって道に迷ったり、ストレスや自由時間が少ないことなどで疲れが溜まることもあります。そんなとき、学生時代の多くの人たちとの出会いや数々の思い出が、あなたを支え癒してくれます。

皆さんが活躍をするこれからの社会は、厳しく不透明です。でも京都府立大学の緑豊かなキャンパスを核に培った思い出の宝箱を胸に、力強く踏み出して行ってください。必ずや道は切り開かれると確信しています。

皆さんの御健康と御多幸をお祈りします。



文学部・文学研究科

「ボン・ボヤージ（良い航海を）」

文学部長・文学研究科長 上田 純一

卒業生・修了生の皆さん、本日は本当におめでとうございます。大学における皆さんのこれまでの努力と情熱に、まず心からの敬意を表したいと思います。そして、四月からの新たな船出をひかえて、広がる夢と少しばかりの不安も抱いておられる皆さんへ、エールの意もこめて、つぎの言葉を贈ります。世界的なベストセラーになりました『アルケミスト』の著者、パウロ・コエーリョの言葉です。

船は港にいるとき最も安全である。だが、しかし、それは船が作られた目的ではない。

皆さんの一層のご活躍をお祈りいたします。

文学部

贈る言葉

文学科国文学・中国文学専攻担任 井野口 孝

ジャーナリスト立花隆の『ぼくはこんな本を読んできた』に次の一節があります。「(大学の) 授業で得た知識より、自分で本を読んで得た知識のほうがはるかに大きいものだ。私の記憶によれば、大学ではよき教師ほど、自分の授業に学生を拘束しようとはせず、むしろ授業を通して独学の仕方を教えようとする」。府大の授業はどうでしたか。もう一箇所。「大学で得た知識など、いかほどのものでもない。社会人になってから獲得し、蓄積していく知識の量と質、特に、20代、30代のそれが、その人のその後の人生にとって決定的に重要である。若いときは、何をさしおいても本を読む時間をつくれ」。

「今思うこと。」

文学科国文学・中国文学専攻 K・K

振り返ってみれば、本当に、ただただしあわせな四年間だったと思います。

それぞれのご専門を愛してやまない、いつも熱意をもって指導して下さる先生方、優しくそして個性豊かな友人達、小さいけれど穏やかであたたかい

時間の流れる校舎。その中で自分の興味の向くまま勉強ができるということ。もちろん、つらく思うこともありました。演習の準備や卒論に行き詰まって、落ち込んだり悩んだり…時には泣いてしまったり。けれどそれほど真剣に向き合えるものに出会えたということや、そんな時に支えとなってくれた友人達の存在を思えば、それすらもしあわせだったのではないと思うのです。

大学生生活をこの府大で過ごすことができよかったと、心から思います。府大で出会った全てのものへ、全ての人へ、ありがとうございました。

“As Time Goes By”

文学科西洋文学専攻担任 金澤 哲

西文のみなさん、卒業おめでとう。この4年間 (or, maybe a little longer)、あっという間だったと思います。まだ大学生活でなにを得たとか、なにが本当に大切なことだったとか、ぜんぜんピンとこないでしょうね。でも、それでいいんです。今はただ、新しい道を一所懸命に進んでください。

私がみなさんに身につけてほしかったのは、本を読むとか、わからないことを調べるとか、そんな単純な力です。単純なこと、けどだからこそ、時が過ぎても変わらず、頼りにできるものです。

どうか、ここで身につけた力を信じて、それぞれの人生を切り開いていってください。みなさんの幸福を祈って、乾杯！

「ターニングポイント」

文学科西洋文学専攻 K・S

ついこの間入学した気でいたのに、もう卒業！ ということに相成ってしまった。喜ばしい半面、非常に寂しくも感じている。この4年間は、授業、部活、体育会、アルバイト、遊び…と、毎日がとても充実していたし、得るものが沢山あった。京都で一人暮らし、という慣れない環境で積極的に新しいことにチャレンジしていったのは、友人が親身になって話を聞いてくれたり、教授が相談に乗ってくれたり、家族が応援してくれたり…という、周囲の人の支えがあったからだと感じる。京都府立大学を卒業して社会人になるという転機を迎えて不安が無いわけではないけれど、これまで支えてくれた人への感謝を胸に、自立して頑張っ

ていこうと思う。今度は私が他人の支えになれるように。

史学科卒業を誇りに

史学科担任 上島 享

ご卒業おめでとう。卒業論文を書き上げ、京都府立大学文学部史学科を卒業できたことを誇りに思ってください。我々教員が、みなさんに要求している卒論の水準は極めて高いもので、学会誌に掲載できるレベルです。また、論文を書くことは、これまでにない、新たな世界を創造する高度な知的営みです。このような高い目標を持ち、研究に専念し、独自の〈作品〉を創り上げたことは大きな自信になるはずです。行き詰まった時などには、世界にひとつしかない自らの世界を描いた〈作品〉があることを思い出してください。そして、高い目標と理想を持ち、あきらめずに、粘り強く、努力を重ねてください。皆さんのご多幸を祈念しています。

4年間を振り返って

史学科 I・N

ご縁あって史学科に入り、もう4年。幼い頃から文章を書くことが苦手だった私はレポートや卒業論文の作成に苦勞し、「なぜこの道を選んだのだろう」と悩んだ時もありました。

しかし、厳しくも優しい先生方や個性的な同級生達をはじめ多くの人との出会い、学問との出会いなど沢山の素敵な出会いがあったからこそ、どうにかここまで来ることができました。高校生のあの時、京都府立大学文学部史学科と出会い、選んで良かったです。このご縁をこれからも大事にしていきたいと思います。

支えて下さった皆様、本当にどうもありがとうございます。

逆境を乗り越えて

国際文化学科担任 井上 直樹

国際文化学科の皆さん、卒業おめでとう。四年間の学生生活はいかがでしたか？ 私の研究室にはみなさんの新入生合宿時の写真が飾ってありますが、入学直後にはあんなに初々しかったみなさんが、今はまるで別人のようにたくましくなっているのに気づかされます。この四年間でみなさんは楽しい経験のほかに、前年までの楽勝ムードから一気に苦境に転落した就職活

動や毎日夜遅くまで頑張った卒業論文の作成など、つらく、苦しかったこともたくさん体験されたとおもいます。それを乗り越えたからこそ、みなさんは大きく成長され、晴れて卒業を迎えることができたのだとおもいます。これからみなさんはこれまで以上に厳しい社会に出て行くこととなりますが、逆境に打ち勝って、大きく羽ばたいて下さい。みなさんが元気で活躍されることを心よりお祈りいたします。

「4年間を終えて」

国際文化学科 K・T

走りきった、という気がします。色々ありましたが、その全部をひっくるめて「府大に入って良かった」と思います。といっても、なにか大きな資格を取ったり、どこかの大会で優勝したりしたわけではありません。知らない人が見たら、府大に入った時から何も変わっていないように見えるかもしれません。ですが私は、サークル活動や勉強、卒論を通して「自分にもやり通せるんだ」という自信を持つことが出来るようになりました。目に見えず形も無いものですが、これから色々あるであろう人生で、私の背中を常に押してくれるものだと思います。それを与えてくれたのは府大で出会った全ての人です。心から感謝します。

文学研究科

夏への希望

国文学中国文学専攻担任 赤瀬 信吾

2009年8月末の夕刻、二条大橋から北を望む。澄んだ川波と深緑の葦原。人々は、あるいはジョギングや散策を楽しみ、あるいはベンチで談話や読書にふけていた。いつの間に出現していたのか、この平和な風景は。

長崎に生まれたわたくしにとって、8月はいつも残酷だった。亡くなった叔母が、周囲の多くの人々が被爆していた。詩人の山田かんは、原爆が投下された日、まったくの孤児になった。東京や大阪から長崎に帰る途中、どうしても広島で下りてしまう、と静かなまなざしで語ったことを忘れることができない。

永遠に、晩夏の静かな風景が続くよう、巣立ってゆく皆さんの努力を願う。修了を心より祝福しながら、平和への希望を託したい。

「憧れの地、京都で」

国文学中国文学専攻 I・M

地元千葉県で国文学を学ぶうちに、京都への憧れが昂じて、府大大学院に進学しました。京都観光は存分に楽しみましたが、それ以上に印象に残っていることが2つあります。1つは、源氏物語千年紀のイベントに関われたこと。また1つは、京都府立総合資料館で、府大の先生方と同館とが京都新聞に記事を連載されていた「古典籍へようこそ」の展示会が行われた際、修士論文の主題となる『源氏物語事假書』に出会ったことです。

憧れだけで始まった大学院生活でしたが、府大でなければできない貴重な経験をさせてもらい、充実した2年間になりました。学問の苦楽をともにした友人、懇切丁寧な指導をしてくださった先生方、そして家族に、深く感謝します。

時には亀で

英語英米文学専攻担任 野口 祐子

修了生の皆さん、おめでとうございます。博士前期課程の2年間、あるいは博士後期課程の3年間、四角くテーブルを囲んで、また研究室で向き合って、一緒に英語を読むことを続けてきました。その中で皆さんには、言葉を大事に扱う姿勢が身に付いたと思います。それは一見地味な収穫ですが、社会において最も重要なことのひとつです。これから企業に勤める人、教職につく人、研究を続ける人、行く道は様々ですが、言葉を大事に扱う姿勢は変わらないものと確信します。

世の中、効率・スピード・結果重視の傾向が加速してきて、息苦しいほどですが、ゆっくり時間をかけて一つの研究対象に打ち込んだ経験を忘れないで、時代の流れに飲み込まれることなく、時には亀で行きましょう。

出会い

英語英米文学専攻 N・M

“O brave new world.” シェイクスピアの『テンペスト』において、初めて人間たちを見たミランダは感動をこう表現する。私にとってこの2年間はまさに brave new world との遭遇だった。数々の作品との出会い。様々な視点から作品に向き合い、知識を深めじっくり味わえた。素晴らしい人たちとの出会い。学部時代からお世話になった文学に造詣の深い先生方、

個性的で面白い様々な年齢の研究室の仲間達と出会えて本当に幸せだった。全ての出会いに感謝！！高校で教える立場に立つことで改めて実感できた、学ぶことの楽しさ。どんなときも新しい心、新しい目で世界を見続ける人でありたい。元気に高校講師と大学院生を両立することができたのも家族のおかげ。本当に本当にありがとう！！

立派な礎石

史学専攻担任 菱田 哲郎

古代寺院を発掘してみると、その基礎にたいへん大きな石が用いられていることに驚かされます。中世以降になると、次第に柱と釣り合う適度な大きさの石が用いられるようになりますので、古代寺院では十分すぎる礎石が選ばれていたということになります。おそらく、寺院というまったく新たな建築物を造るにあたって、念には念を入れて基礎を築いたことを示していきましょう。最初の一步というのは、このくらい力を入れておきたいということのお手本です。修士論文は、まさに皆さんの学問にとって礎石と言えるものです。その礎石の上に、これからどのような柱を立て、建物を建てていくのか、これからも見守りたいと思っております。皆さんおめでとうございます。

恵まれた環境に感謝

史学専攻 S・T

大学院に入学して2年が経ちました。卒業論文や修士論文の作成に際しては、個人の努力が大切なことは言うまでもありませんが、自分を取り巻く環境に左右される側面もあるでしょう。そういった意味で、この大学では考古学以外のアプローチで文化財に対する認識や見識を深めるきっかけや、国際的な視点も与えてもらいました。また考古学の分野では調査などが多いこともあって、チームワークが重要ではあることがもちろんですが、卒業論文や修士論文の作成といった個人に努力が重要な部分でも、自分や後輩たちの頑張りを見守る中で、切磋琢磨できる環境が重要だと言うことを感じました。道は自分で拓くものですが、恵まれた環境にも感謝。



福祉社会学部・公共政策学研究科

「福祉社会」を求めて！

公共政策学部長・公共政策学研究科長 小沢 修司
(福祉社会学部長・福祉社会学研究科長)

学部、大学院博士前期課程を卒業・修了される皆さん、おめでとうございます。私の肩書きには「公共政策」が付いていますが、学部を卒業されるみなさんは「福祉社会」です。ただ、学部や研究科の理念は「福祉社会を目指して公共政策を拓く」で、「福祉社会」を目指すことに違いはありません。「福祉社会」って何でしょうか？ その答えは皆さんの中にあると思います。切り口とした学問分野はいろいろであったかもしれませんが、物事を狭く捉えることなく、広い視野で多面的な問題関心を持ち社会のこと人間のことを考えてられました。多様な個性の共生、そしてみんなの幸せと自分の幸せに思いを馳せたのではないのでしょうか。多様性と共生、福祉と発達。これからも「福祉社会」づくりを目指しましょう。

福祉社会学部

旅立ちに

福祉社会学部担任 野田 浩資

ご卒業おめでとうございます。米国発の経済危機もあり、政権交代もあり、大きな変化のあった時期に学生生活を送り、皆さんは立派に成長されました。入学してからの4年間のご自身の成長と時代の変化をしっかり感じてください。自分たちで考え、自分たちなりのペースで行動できる傾向を好ましいものと見守っていました。

自信と希望を携えて旅立ってください。京都府立大学でのさまざまな経験が、きっと人生の手がかりとなることでしょう。それぞれの分野での皆さんの活躍を楽しみにしています。気が向けば、羽を休めに大学の研究室に顔を見せに来てください。先生方もさらに成長した皆さんの姿を見て喜ばれることでしょう。

京都府立大学での出会いに

福祉社会学部 I・M

京都府立大学に入学してから、卒業するまでの4年間はあっという間でした。自分の学生生活を振り返っ

てみると、たくさん大切な出会いがあったなと感じています。私は学生生活を送るなかで、自分は何をしたのか悩んで過ごした時期もあり、学校をやめようと思ったこともありました。そのたびに、周りの友人たちが真剣に話しを聞いてくれ、「一緒に卒業しようや」と言ってくれました。卒業論文執筆では、担当の先生にたくさんの励ましをいただきました。また、弓道部の活動や、卒業論文でのNPOの調査を通じて、多くの人と知り合うことができました。色々な人との出会いが、卒業するための自分の支えになってくれ、成長もさせてくれたと思います。私が出会った人たちが、この出会いをくれた京都府立大学に感謝しています。

公共政策学研究科

栄えある1期生のみなさんへ

公共政策学専攻担任 中島 正雄

ご卒業、おめでとうございます。

みなさんは、公共政策学専攻の栄えある第1期生です。この2年間、みなさんと教員、職員が、力を合わせ、悪戦苦闘しながら、新しい研究科・専攻づくりを進めてきました。パイオニアであったみなさんには、ご苦労が多かったことと思います。また、ご迷惑もおかけしました。特に、院生研究室の引越しでは、多くの労力と貴重な時間を使わせてしまいました。申し訳なく思っています。

立ち足かかる様々な困難を乗り越えて、修士の学位を見事に取得されたみなさんは、どうぞ、そのことに自信と誇りを持ってください。そして、力強く、次のステップに歩み出してってください。みなさんのご健康とご活躍を心から祈っています。

決意新たに、したたかに

公共政策学専攻 I・M

大学院生活では、何度も大きな波にのみ込まれそうになった。そんなときにはよくお気に入りの場所へ行った。京都にはたくさんのすばらしい場所があるのが良かった。そして、なにより、どんなときにでも応援してくれる人が周りにいたから、何とかやってこれたのだと思う。 magari なりにも修士論文を書くことができたのは、先生や院生のみんな、家族も含めいろいろな人たちのおかげだ。また、私はこうした人たちから

研究のことだけでなく、たくさんのことを学んだ。それぞれがたくましく生きている様から、私もこれからどんな風にだってやっていこうと思えた。

こうした環境のおかげで、本学での2年間はなんだかとっても充実していたように感じている。

成熟せよ。

福祉社会学専攻担任 中根 成寿

実は私が大学院修士課程を修了したのは、9年前のことである。博士課程を修了したのは5年前のことである。そんな駆け出しの私が皆さんにたいそうに言葉を贈るのはおこがましいような気がする。ただ、私は一人で皆さんの前にたって教育を行ってきたのではない。私の師匠、そのまた師匠、さらには諸科学の巨人たちの肩の上ののって教育を行って来たつもりである。だから私が皆さんとラーメン屋に行ったり、鍋をつついたりしてもそれは私と鍋をつついているように見えて、実は諸科学の巨人たちと鍋をつついたのと同じ事である。私もそのように学んできたし、これから皆さんもたぶんそうしていく。そして先生から学生に伝えることはたくさんあるように見えて実はひとつしかない。「成熟せよ」。学問は成熟への一番の近道である。修了おめでとうございます。

6年間の感謝をこめて

福祉社会学専攻 O・R

6つになった(A.A ミルン 作・周郷博 訳)

1つのときは 何もかもはじめてだった
2つのときは ぼくはまるっきりしんまいだった
3つのとき ぼくはやっとぼくになった
4つのとき ぼくは大きくなりたかった
5つのときは 何から何までおもしろかった
今6つで ぼくはありったけおりこうです
だから いつまでも 6つでいたいと ぼくは
おもいます

漠然と福祉を学びたいと思って入学した1回生の頃。これだと思える分野に出会い、大学院進学を決意した3回生の頃。そして研究に打ち込んだこの2年間。お利口になれたかどうかはわかりませんが、この6年間の学びと出会った人々への感謝をこれから社会へ出る上での「初志」として、いつまでも忘れずにいたいと思います。

人間環境学部

「感謝の心を第一に」

生命環境科学研究科長 久保 康之
(人間環境学部長・人間環境科学研究科長)
(農学部長・農学研究科長)

ご卒業おめでとうございます。4年間を振り返って様々なことが目に浮かぶのではないのでしょうか。うれしかったこと、悲しかったこと、すべてが大事な経験だと思えます。卒業に際して、お世話になったご両親や支えてくれた方々にどうかお礼の言葉をかけて下さい。二十歳を過ぎてと銜わずにどうか言葉に出してみてください。それが、ご両親にとって大きな喜びと力になることは間違いありません。それほど、子どもの力はすごいともいえます。これから社会に出ても多くの人に様々にお世話になると思いますが、恩を感じ、それを報いていくという行為にこそ自分自身を飾っていく極意があると感じています。これからの人生に勝利あれと期待致します。

京都府立大学を去る者から去る者へ

食保健学科担任 北條 康司

入学式と、それから間もなくの京都府立ゼミナールハウスでの新入生合宿研修で始まった大学生活はいかがでしたでしょうか。人から教えられるだけではなく自ら学ぶことができたでしょうか。何事にも疑問を持って考えることができたでしょうか。ソクラテスの言葉「無知の知」のように、自分自身が無知であることを知ることから出発して物事を探求するという姿勢が貫けたでしょうか。社会に出れば、与えられた課題に応えるだけではなく、課題を自ら探求することが求められます。私も皆さんと同時に本学を去ることになりますが、陰ながら、皆さんの社会での活躍を祈っています。

仲間と共に考え、実践する

食保健学科 A・H

私の大学生活は、学科の勉強、アメリカンフットボールばかりした4年間でした。2つに共通していえるのは、すばらしい仲間と共に考え、それを実践したことです。学科では、栄養教育実習など仲間といいものをつくるためにどうすべきか考え、先生に指摘され、また考え、実践する。またクラブでは、勝つためにどうすべきか、みんなで考え、チームのプランを、プレーのプランを、そして練習のプランをたてる。アメフトで他のスポーツにはない経験ができました。そんなアメフトに惚れ込み、4年生で個人表彰され、関西選抜に出場もできました。さらに4年間リーグ優勝もできました。考え、実践することの難しさ、すばらしさを心に刻み、これからは、考え実践したことを評価できる人間になりたいです。最後に先生方、また同回生の皆さんありがとうございました。特に研究室のみんなへありがとう。

今後の発展を願う

環境デザイン学科住環境学専攻担任 内田 保博

卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。大学で多くを学び、大きく成長したことと思います。もし、十分に学ぶことができなかつたと感じている人がいたら、まだチャンスはあります。今後は大学生活で得た様々な知識や経験を生かすとともに、今の気持ちを大切にして発展されることを願います。

経済状況が厳しく、なかなか希望通りに進路が決まらなかった人は少なくないと思います。新しい環境に早く慣れて、着実に成果を出していくことが大切です。京都府立大学で学んだことを誇りに思い、培った友情を大切にして、過ごして下さい。

今から新しい生活が始まります。今まで支えてくれた人への感謝の気持ちを持ち、努力して夢を実現することを期待しています。

「大学生活をふりかえって」

環境デザイン学科住環境学専攻 K・E

大学生活の4年間は私にとってかけがいのない4年間でした。

大学生活は授業の課題にいつも追われていました。期限に間に合わず学校で徹夜することもよくありました。学科の仲間とお互い支え合いながら、朝の鳥の鳴

き声を聞いたことは今となってはいい思い出です。そんな辛いはずの徹夜をこなせたのは仲間にも恵まれていたからだと思います。辛い時は支え合い、楽しい時は一緒に笑い合う、そんな仲間と出会えたからこそ今の私があると思います。

府立大に入学して勉強、部活などを通じてたくさんの経験を積むことができ、自分自身を成長させることができました。それら全ての出会い、思い出に感謝します。ありがとうございました。

頑張ったことを思い出して

環境デザイン学科生活デザイン専攻担任 河西 立雄

卒業おめでとうございます。皆さんにとってこの4年間は充実したものでしたか、そして自分のやりたいことを見出せたでしょうか。

実測図面の課題で皆さんと顔を合わせてから4年が経ちました。おそらく製図室やゼミ室で過ごした大学生活は、学び、考え、友人と語ることで重要な時間であったと思います。少なくともこの経験は皆さんのどこかに残り、頑張ったことをふと思い出しては励みになることがあるでしょう。

これから社会に出て、さらに多様なこと、難しいことに出会うと思いますが、その答えは必ず頑張った自分の中にあるという気持ちで行動して下さい。皆さんそれぞれの良さが引き出される環境と機会に恵まれ、活躍されることを期待しています。

卒業にあたって

環境デザイン学科生活デザイン専攻 M・Y

新しい環境に不安ばかり抱いていた入学当初、大学生活がこれほど楽しく充実したものになるとは思っていませんでした。それもすべて、多くの先生方や友人、先輩や後輩との出会いがあったからです。授業や旅行中に得た知識などはもちろんですが、4年間で出会った沢山の人の関わり合いこそが、私の興味と行動の幅を広げてくれる一番の力となりました。特に卒業設計に取り組むなかでは、自分ひとりで考えていた設計が、人との会話によってより深い設計になっていくことを実感しました。ご指導して下さいました先生、アドバイスを下さった先輩方、力を貸してくれた友人に心から感謝しています。

この沢山の出会いに感謝して、これからの新しい出会いもまた大切にしていきたいと思います。

卒業生のみなさんへ

環境情報学科担任 山下 博史

10期生のみなさん、卒業おめでとうございます。4年前、入学時に心に抱いていた大学生活を送ることができたでしょうか。4年間の集大成である卒業研究発表を通して、日々の努力の大切さを学び、自力で問題を解決する能力を身につけたと思います。今後社会に出て、いろいろな課題に直面しても、これまでの経験を生かして乗り越えていけることでしょう。大学院へ進学されるみなさんは、さらなる研究生生活を通して、充実した日々を送ってください。

環境情報学科はあと1年でなくなってしまうですが、4年間過ごした日々は消えることはありません。これまでに培われた友人や研究室の先輩などとのつながりを大切にこれからの人生を頑張ってください。みなさんの活躍を楽しみにしています。

関わったすべての方に感謝

環境情報学科 K・K

4年間の大学生活を振り返ってみると、研究室は、先生や研究室の諸先輩方、サークル活動では、同回生、先輩、後輩、OB、OGと多くの方に支えられてきたなと感じています。研究室では、物事に取り組む姿勢・考え方を、サークル活動では、コミュニケーション力とチームワーク力を学ぶことができました。そんな中、共に喜びを分かち合うことの出来る友人もたくさんでき、非常に充実した大学生活を送ることも出来ました。この4年間のさまざまな経験を経て、自分自身、人として一歩成長できたように思います。ここで得た経験を、今後の生活の中でも活かしていければと思います。これまで関わってきたすべての方に、心から感謝したいと思います。ありがとうございました。

農学部

働くこと 門出に際して

生命環境学部附属農場長 平井 正志

働くことは科学の基礎です。古代から人間は労働の中で科学の法則を得、それを体系化し、それにより労働を効率化してきました。しかし、現代の若者は労働の環境から離れた所で勉強をするということが多かったようです。これではなぜ勉強が必要なのか体感することが困難です。これは社会的問題といってもよいでしょう。府大農場での実習はその問題の解決としてはほど遠いのですが、諸君に少しでも農業の体験、栽培という労働の体験をと思い、担当の教員が心を砕いてきました。実習を受けたからといってその効果はすぐに成績などに表れるものではありません。しかし、どこか体の奥底に沈殿し、いつか知識と知識をつなげる糸となって浮かびあがるものだと思います。卒業する諸君の多くは労働に就くはずですが、またその道は平坦ではないでしょう。しかし、勇気を持って新しい道を歩んでください。たまには農場の実習も思い出してください。

遊び心を大切に

生命環境学部附属演習林長 湊 和也

梅ヶ畑演習林に昨年出来た山小屋は手作りで、お世辞にも「玄人はだし」の出来映えとは言い難い。しかし、

コンクリートや最新の建築材料などで固められた味気ない空間で一日の大半を過ごしていると、不思議と安らぎを覚える。赤く燃える薪ストーブ、その上のやかんから出る湯気には、エアコンなどとは全く別の暖かさがある。鹿の角で出来たドアの取っ手、取り付けの良くない窓もご愛嬌で、遊び心の産物である。精巧な道具や機械にも必ず“遊び”が作ってあり、これがないとスムーズな動きができないそうである。人の心も同じで、息詰まる日々を過ごしては豊かな発想も出てこない。多忙な中にも遊び心を見出し、精神的に豊かな生活を送って欲しい。

朝の来ない夜はない

生物生産科学科担任 三野 眞布

世界経済が沈滞し、皆さんは大変な時代にいます。このような時だからこそ人の力がためされ、その真価が問われています。この国は幾度が危機を乗り越えてきました。しかし、それは一人の力でなされた訳ではありません。人と人のつながりを通して発揮された力です。皆さんがこの4年間の大学生活で知り合った友人、先輩、後輩、教員、そして身に付けた知識、技術はすべて皆さんがその力を発揮するための糧であり宝です。これからは皆さんがこの国や世界をあるべき良い方向に導く主役です。どうか、この4年間を思い出しながら将来につながるビジョンを持ってください。今は良い時とは言えませんが、「朝(あした)の来ない夜はない」のです。卒業おめでとう。

4年間の感謝をこめて

生物生産科学科 D・M

この4年間はあっという間でしたが、充実した時間でした。

学業の面では多岐にわたる分野の先生方に教授いただき、とても恵まれた環境だったと思います。何よりも、学生生活ではたくさんの信愛する友人・先輩後輩と出会えたことがすごく幸せでした。所属していたローズサークルでは、ばら展の開催で忙しく大変なこともありましたが、いろいろな人と交流して協力をいただきながら、楽しく良い経験ができたと感じています。また、この1年は研究や進路などで悩むことが多く、その度に友人に励まし支えてもらいました。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

卒業するにあたり寂しく思いますが、方向は違っても頑張っている友人とともに、4年間で得たものを糧にして、私も頑張っていきたいと思います。

人間万事塞翁が馬

森林科学科担任 古田 裕三

ご卒業おめでとうございます。皆さんにとって大学生活は有意義でしたか？ クラブやバイトや勉強に、最後は卒論にと忙しかったことと思います。楽しかったことも、辛かったことも、いっぱいあったことでしょう。その中で、色々な知識はもちろん、自然と「知恵」がついたことと思います。これこそ、大学で学ぶべき主たるものです。今はその意味や効果がわからなくても、それはいずれ皆さんの「人間力」として出てきます。最後に一言、今後の人生、辛いことも嫌なこともいっぱいあるでしょう。でも、それは逆に大きなチャンスです。大学で培った「知恵」と「人間力」で、その逆境をチャンスに活かせるかどうかだけです。「人間万事塞翁が馬」です。頑張ってください。

卒業にあたって

森林科学科 K・K

本学に入学してからの4年間は、本当にあっという間でした。飲み会や旅行など楽しい思い出がたくさんある一方、せっかく学ぶチャンスがあったのだから、もっと1回生の頃から勉学に励んでおけばよかったという思いもあります。学生生活では友人や先輩、先生方に大変お世話になり、充実した毎日を送ることができました。特に研究室に配属されてからは、先生と生徒の

距離が大変近い大学であることが改めて感じられました。これから社会に出る人もそうでない人も様々ですが、本学で得たもの、学んだことを活かして、毎日をしっかりとして過ごしていけたらと思います。また、残り僅かな学生生活も、悔いの無いように充実させたいです。

ワン・ピース

生物資源化学科担任 金本 龍平

今、手元に合宿研修で自己紹介の折に撮った君たちの初々しい写真があります。改めてみるとさわやかな笑顔がとても印象的です。4年間担任を務めました。だいたい担任が動くときはろくなことではなく、大抵は小言と決まっています。写真では37名いますが、このうち5人は諸般の事情で一緒に卒業できません。私は、5人の保護者の方に電話あるいは直接会って何度となくお話ししました。状況を説明し、大学のシステムの中で可能な選択肢を示し、話をうかがいながら最後は決断を促すと言う一連の作業ですが、当人の一生に関わることなので、なかなか気の重い仕事でした。しかし、いろいろ思いを巡らすうちに、人生に起こった一つのこと、その後の人生が決まるなんてことはあるのだろうか考えるようになりました。確かに人生振り返ればエポックメイキングな出来事がいくつか思い浮かびます。でも、それは人生というシグソープズルのワン・ピース。大事なのは様々な可能性を持つピースをどうつなぎ合わせるかということではないかと思います。府立大学で過ごした4年間でピースをつなぎ合わせる力の一つとなれば、教師としてこの上ない喜びです。君たちの人生が実り多きことを祈っています。卒業おめでとう！

大学生生活を振り返って

生物資源化学科 I・T

「思い切って京都に送り出してよかった。」卒業を前に、地元の母が私に言ってくれたこの言葉がとても嬉しかった。大学生生活四年間は本当にあっという間で、正直なところ自分が何を学び、積み上げてきたかはっきりとした自覚はない。ただ、確実に私のなかに新たに芽生えたものがあり、それが私を大きくしてくれた。学校やバイト、サークルなどで多くの人と出会い、その人たちとともにした様々な経験なくしては得られなかったことばかりだと思う。「ここに来てよかった。」私は笑顔でそう言える。

だから、ここで出会えた人々に、そしてもちろん両親に、今までの感謝をこめた「ありがとう」ということばと同時に「これからもよろしくお祈りします」ということばを伝えたい。

生命環境科学研究科

独学のすすめ

応用生命科学専攻主任 山田 秀和

修了・卒業おめでとう。

卒業・修了は学業の終わりではなく、これから本当の意味での学業が必要となる。修了・卒業後は、今までの受け身で学ぶ姿勢から、「独学」による積極的な学びへの転換が求められる。「独学」は、進歩は遅く、挫折しやすく、独断と偏見による誤解を引き起こす可能性も多々あるが、未知へのチャレンジ精神に通じるものがあり、楽しく、本当の意味での学業と言えよう。経験ある先達から学ぶことも大切ではあるが、修了・卒業生諸君が未知の世界に果敢に「独学」で挑むことを期待したい。

数々の出会いを通して

応用生命科学専攻 K・A

大学に入学して、恩師や先輩、友人などたくさんの人々と出会いました。さまざまな出会いは私の価値観や生き方に大きな影響を与えてくれました。彼らのようになりたいと思いつつ頑張ってきた日々が思い出されます。

大学に入学してからの6年間を振り返ってみると、ずいぶん成長したと思う反面、まだまだ未熟だと痛感もします。6年間で目標にしてきたことは数多くありますが、胸を張って達成できたといえることはごく僅かです。大学を卒業しても、数多くの人々との出会いが待っているのでしょうか。その出会いの一つ一つを大切に、これからも周囲の人々から多くのことを学んでいきます。最後になりますが、大学生活で出会えたみなさん、本当にありがとうございました。

遊び心をもって旅立とう！

環境科学専攻主任 三橋 俊雄

平安時代末期の『梁塵秘抄』に「遊びをせんとや生れけむ、戯れせんとや生れけむ、遊ぶ子供の声聞けば、我が身さへこそゆるがるれ」という歌があります。まるで遊ぶために生まれてきたみたいに無心に遊ぶ童子らの声を聞いて遊女が身体も心も動かされるという内容です。

また、Huizinga の『ホモ・ルーデンス（遊戯人）』にも、同じく、人間の本质としての「遊び心」を読み取ることができます。みなさんは、これから社会人になって幾多の壁に遭遇することでしょう。しかし、その壁にぶつかりながらそれにチャレンジしていく精神、そして、乗り越えられたときに味わう喜びも、あなたの「遊び心」にほかなりません。さあ、「遊び心」をたずさえて、未知の海原へと旅立ちましょう！

もっと広い世界を学びたい

環境科学専攻 T・Y

最初、日本に来た頃かなり不安でした。違う言語、不慣れな環境など、普段の暮らしだけでも心に負担がかかっていました。さらに、異なる専門分野を勉強するため、生活も研究も、深い森の中で一步一步手探りしながら冒険しているようでした。はじめは、研究することの意味や方法論がよくわからず、先生の助言や新しい知識を取り入れて修士研究に取り組みながら、少しずつ成果がでてきて、ようやく第一段階に到達したところでした。

この二年間に、これからの研究にも関わる踏み出さなければならない世界や知識が山ほどあることを強く実感しました。博士後期課程において、より広範な視野や知識を獲得しながら、さらなる研究を続けて行こうと思っています。

平成 21 年度学長表彰者紹介 ①

○ローズサークル [大学貢献部門]

1957 年の設立以来、52 年間にわたりバラの栽培や毎年春、秋に取り組んできたバラ展は、今や府立大学の年間行事の一つとして地域の方々から親しまれ、2007 年に開催された第 100 回記念バラ展では、期間中約 2000 名の来場者が訪れるなど大学と地域との交流に大いに貢献した。

○朱 天愚さん (文学研究科国文学中国文学専攻博士後期課程 3 回生) [学術部門]

論文「『日本書紀』における漢文助字「被」「見」「偽」「所」の用法について」が日本漢字能力検定協会主催の平成 20 年度 (平成 21 年 3 月 31 日付) 漢検研究奨励賞部門で佳作を受賞した。

退職教員からのメッセージ

「変わらぬものは…」

文学部日本・中国文学科 国際文化学科
池田 敬子

平成5年10月に京都府立大学女子短期大学部に赴任してから16年6ヶ月。当時、府大のキャンパスの秋景色に、やはり京都は山紫水明の地だと感動しましたが、それは今も変わりません。でも冬の雪景色はめっきり減り、夏の夕立も少なくなりました。自然は変わらぬようで、変わりつつあるようです。



府立大学は随分変わりました。女子短期大学部が平成8年度で募集停止、2年後閉学、平成9年に新しい学部・学科が誕生し、私も文学部所属となりました。その新しい府立大学がようやく軌道に乗り落ち着き始めた頃、国立・公立大学の法人化という全国的な変化の波が押し寄せ、平成20年、再び新たな学部・学科構成になりました。めまぐるしく人の世界は変わります。

そのような人の世界で変わらぬものは学生だと私には思えます。私は府大に赴任して初めて「教え子」を持つことを経験し、本当にかわいいものだと思えました。「教師は3日したら止められない」というのはこういうことかと納得しました。講義で、演習で、卒業論文の指導で、私はよい教え子に恵まれ、彼らに励まされ、癒され、教えられてきました。私自身も「日本の古典文献を読む」方法を、変わらず彼らに伝え続けてきたつもりです。「読む」方法は訓練されねば身につけません。教え子達は十分その訓練に応えてくれました。

大学は私が府大に赴任した頃から、ただただ変わることを要求され続けて来ました。しかし、文学部の根本は「読む」ことにある、というのは変わらぬはず。これからも、その根本が変わることなく訓練し、学生も変わることなく応えてくれる大学であることを願って、退職の言葉と致します。

京都府立大学を去るにあたって

生命環境科学研究科応用生命科学専攻 平井 正志

2001年10月から京都府立大学にお世話になった。この大学へ来た当時から私のやってきたことを学生に教えることに迷いがあった。研究者を育てることは農水の職員当時からやってき



たので自信がある。しかし、学生の中で研究職に就くものは現在では残念ながらあらずかである。私の教える専門の知識が学生の将来に役に立つのだろうか？ とともそうは思えない。さりとて人生の先生として誇るべきものも持っているわけではない。今でも迷っている。結局一緒に酒を飲むこと以上のことはやってこなかった。

しかし、私自身にとっては楽しい大学生活であった。これまで、農水の研究機関で研究の対象は農作物に限られてきた。大学に来てから以前から興味があった野生植物にも手を出した。現代の環境破壊の世の中で人知れず失われてゆく植物が数多い。その保護のために何かできることはないかと思った。野山を、あるいは海岸を歩きまわって植物を探し歩くのは私にとって大きな喜びであった。大学の研究者がその時々短絡的な価値観にとらわれず、大局的に見て研究対象を自由に選ぶことができるのは大きな利点である。若い教員の皆さんも勇気を持って新しい将来性のある課題、研究対象に取り組んでほしい。私自身は新しい仕事を始めたばかりで、ろくに業績も残すことなく、大学を去るのはいささか心残りであるが、やむを得ない。今後はフィールドの仕事に徹しようと思う。

京都府立大学の思い出

生命環境科学研究科応用生命科学専攻 北條 康司

1976年4月に本学に赴任して以来、いつの間にか34年が過ぎ去り、定年退職を迎えることになりました。最初の赴任部署は家政学部食物学科食品衛生学講座でしたが、翌年に学部が生活科学部に改名され、1997年には人間環境学部食保健学科食品安全性学講座（分野）となり、2008年に学部が生命環境学部と変わりました。2006年度から、教育面での食品安全性学担当教員の退職までの課題として、「食品衛生法」に規定されている「食品衛生管理者」「食品衛生監視員」の養成課程の申請作業に取り組み、2008年4月、本学の法人化発足と同時に養成課程を食保健学科に設けることができました。研究面では、公立大学設備補助金（公大設）による電子スピン共鳴装置（ESR）導入により常磁性物質の分析が可能になり、食品安全性学分野における常磁性物質の関与の研究を進めることができ、精子機能障害や認知機能障害をひきおこす食生活中の微量危険因子の解明研究に役立てることができました。

私は、1946年12月生まれで、最初の「100%戦後世代」でもあります。阪急電車京都線の桂駅の東口で生まれたのですが、子供時代の本学は西京大学の時代

京 都 府 大 広 報

で、桂には文家政学部および短期大学部があり、駅の東口にあるキリスト教会で毎週開かれていた「日曜学校」で学生さんが披露してくれた人形劇をよく見に行ったものでした。さらに、高校2年生の時、1年生がベビーブームの最初の学年として入学したため、私の通っていた桂高校では1年生を収容できなくなって、近くにあった本学文家政学部の建物（文家政学部および短期大学部はこの前年4月に現在地に移転）を分校として使うことになり、校内のスポーツ大会で使用した分校の体育館が古いけれども立派であったことを想い出します。

永かった私と本学との関係もこの3月で終わってしまうわけですが、最後に、厳しい状況の中、本学が独自性を尊重され末永く地域社会に貢献されることを願っています。

蓋然的な「たまたま」

生命環境科学研究科応用生命科学専攻 中野 幹夫

ある方から、農業登録において実用性の審査に携わっておられる方の新聞記事を読んだ。その中に、レナード・ムロディナウ著（ダイヤモンド社）の「たまたま」という本が紹介されていた。早速入手したが、未だ読んでいない。読む前に自分の「たまたま」への想いを認めてみることにした。



まず、鳥取大の高名なナシ学者の言が想い出された。実験系の分野では、研究成果を多くの方に認めて戴く為に、手法の適正性と統計的に意味のある数値を示すように心掛ける。しかし、当該教授は「統計処理をしなければならぬような実験結果は価値がない。一目見て誰にでも分かるような結果でないと農業の現場ではほとんど役に立たない。」とおっしゃっていた。一理ある言である。「たまたま得たデータに一喜一憂していないだろうか？」と自問した。しかし、僕の今の仕事は育種である。「たまたま」でよいから、たった一本でよいから優秀な固体を得たいと願っている（あとは栄養繁殖できるから）。

歩んできた人生に「たまたま」を当てはめてみた。父が林業の仕事で事故死したため、親戚中から林業に就くことを諦めるよう諭され、残された母の為に将

来は帰郷することを条件に進学を許された。そこで、農学部を志望した。しかし、初心に反し、3大学に進学し、2大学に就職して、母を田舎で一人住まいさせ続けた。岐路の度に二者択一の機会があり、多くの方から示唆も戴いたが、自分でこの進路を選んだ。教職に就いて、たまたま僕と一緒に学んでくれた多くの学生さんには、その「たまたま」の時間が果たして有意義であったのだろうか？ 自問すれば忸怩たるものがある。ともあれ、僕としては全員に「ありがとう」を言いたい。

退職にあたって

生命環境科学研究科環境科学専攻 湊 和也

2000年に本学に着任してから10年間、前任期間を併せると36年間の大学教員生活を終え、定年を迎えることになりました。教員・職員の皆様には何かとお世話になり、ありがとうございました。優秀な学生にも恵まれ、充実した日々を過ごすことができたことにたいへん感謝しています。

この10年間、病気のために年休を取った日は一日もなかったと記憶しています。ありがたく、また誇りに感じています。もっとも、食事制限、適度な運動、規則正しい生活が課せられていましたが、これも幸いしたかもしれません。年齢とともに朝の目覚めも早くなり、早寝・早起きと早朝出勤を通しましたが、体調の維持、通勤ラッシュの回避、まとまった時間の確保の一石三鳥でした。早朝の大学構内は清々しく、ラジオから流れる音楽を聴き、コーヒーを飲みながら、何にも妨げられずに講義の準備、論文の執筆、メールへの対応などに集中できました。時には訪問者もあり、有意義な会話も楽しみました。そのような一人に、民間の研究所に勤め、通勤の途中に立ち寄ってくれる大学時代の研究室の同輩がいました。会話の中から研究上のヒントを得たり、逆にアドバイスをしたり、身の上話や学生時代の思い出話もしました。勤務先の研究所が規模縮小されたときには実験器具を譲ってくれました。不幸にも彼は60歳の定年を迎えて程なく他界しましたが、本学で過ごした早朝の憩いのひとときとともに懐かしく思い出します。

本学に限らず、大学の行く末には厳しい状況が予想されますが、京都には規模は小さくても個性的で元気の良い企業を生み出す風土があるようです。本学もそれにあやかって、オンリーワンの大学を目指して下さい。

公共政策学部公共政策学科の奥田香子先生が転出されます。長年の間、学生の教育や研究などの発展にご尽力いただき、本当にありがとうございました。

後援会理事長・同窓会長からのメッセージ

ご挨拶

後援会理事長 原田 研一

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

皆さんは充実した学生生活を終えられ、真の社会人として今、巣立って行かれます。ご存知のように今、日本の社会、経済は不安の中で揺れ動いております。しかし、そんな時代だからこそ、皆さんのような若くて逞しい人材が、求められているとも申せましょう。この府立大学という充実した環境の中で培われた、技能や経験を大いに活かし、高い誇りと先取の気概を持って、大いなる荒海に乗り出していただきたいと願っています。今年は坂本竜馬がブームだそうですが、維新の先人たちが、閉塞した時代を打ち破り、西洋の大きな力に颯爽と立ち向かって行った姿に皆さんの姿をかさね合わせているのは私だけではないでしょう。明治維新の大きなうねりが巻き起こった京都の地から、皆さんのような若い力が巣立って行くのを、誇らしい気持ちと万感の期待をこめながら、見守りたいと思います。

最後になりましたが、長年成長を見守ってこられたご両親、学校関係者に心から感謝を申し上げたいと思います。ありがとうございました。



夢の人生ドラマ実現へ

同窓会長 浦上 弘幸

卒業生・修了生のみなさん、ご卒業・修了おめでとうございます。心からお慶び申し上げます。

これからの新しい人生の幕開けですね。人生はドラマと言いますが、ドラマの出来栄を良くするには、脚本、監督、俳優…それぞれ十分に役割を果たさなければなりません。人生のドラマではこれらすべてをそれぞれの人が行ない演じていかなければならないのです。これまで、両親、兄弟姉妹、友人など多くの人達に甘えて歩んできましたが、これからは他の人達と一緒に自分も応分の役割を果たしていかなければならないので大変なことだと思います。でも、考え方によっては、これほどのチャンスは滅多にないのです。親離れ、子離れをして独立できるまたとないスタートラインに立てたのです。このチャンスをぜひ生かして素晴らしい人生のドラマの脚本を書き、演出を考え、実際に演じて欲しいものです。現代は消化しきれないほどの情報が溢れ、様々な疑似体験もできるといった反面、老若男女を問わず目先のことにとらわれ、夢を見ることはほとんどなくなっているのではないのでしょうか。このような時だからこそ、つねに夢を描き、その夢を実現できるよう頑張っていたいただきたいものです。

どうか、健康に留意しながら夢多き人生を歩まれんことを期待しています。



平成21年度学長表彰者紹介 ②

- 瀧本 知加さん（公共政策学専攻福祉社会学専攻博士後期課程2回生）〔学術部門〕
「専門学校の研究」及び「介護福祉職の養成・資格制度の研究」に関する諸論文及び学会活動が平成21年度日本産業教育学会「桐原賞（奨励賞）」を受賞した。
- 小川 亜紀さん（生命環境科学研究科応用生命科学専攻博士後期課程2回生）〔学術部門〕
2009年度の日本アミノ酸学会及び日本栄養・食料学会において研究が高く評価され表彰された。
- 佐野 朱美さん（人間環境学部環境デザイン学科住環境学専攻2008年度卒業）〔学術部門〕
日本建築学会において卒業論文「北山スギの里集落の景観と民家形式」が応募論文54編の中から2009年度「優秀卒業論文賞（計画部門）」に選ばれた。
- 奥田 賢さん（農学研究科生物生産環境学専攻博士後期課程2009年3月単位取得退学）〔学術部門〕
在学中に投稿した論文「京都市東山における過去70年間のシイ林の拡大過程」（共著）が第11回森林立地学会誌論文賞を受賞した。
- 浦戸 大輔さん（生命環境科学研究科応用生命科学専攻博士前期課程2回生）〔学術部門〕
国際機能性食品学会2009年第2回年次大会において発表した「ESI-MS/MSとプレカラム誘導化によるヒト血中の食事由来ペプチドの同定法の開発」が高く評価され、「Student Poster Award 学生ポスター賞」を受賞した。
- 渡部 晋平さん（生命環境科学研究科応用生命科学専攻博士前期課程2回生）〔学術部門〕
第37回日本環境変異原学会における「桂ウリの香気成分の発がん抑制作用」についての発表が高く評価され、ベストプレゼンテーション賞を受賞した。

博士學位取得者からのメッセージ

府大生としての自覚と誇り

文学研究科国文学中国文学専攻博士後期課程
2004年入学 Y・S

このたび漸く、府大で三度目の学位授与式を迎えることになりました。

さて、長い間、府大生だったわけですが、隣の「府立植物園」にはこれまで一度も入ったことがありません。名所もいつでも行けると思うと意外と行かない、というよくある話です。でもそれだけでなく、名前に同じ「府立」を冠しながら、こっちが「植物園附属…」の如き小ささであるのが癪で、そのうえ府大と府大生がどこか遠慮し過ぎてしまうのは、この控えめなキャンパスに一因がある気がしたからだと思います。

ただその反面、府大には「〇校・〇社の一員としての自覚や誇り」を強要する雰囲気がありません。そういう自覚や誇りは、時に、自分にはまだ分からないと認めることを妨げるし、人に尋ねにくくもします。失敗を極端に恐れて“冒険”もしにくくなります。

知識や思考、行動の幅を広げるために変な自覚や誇りを持たないこと、常に何ゴトかに遠慮する謙虚さを持ち続けること、府大で身につけたこれらが研究を含めた今後の生活できっとプラスになると思います。

私の博士課程（我的博士課程）

人間環境科学研究科生活環境科学専攻 T・U

博士論文のテーマは、「上海租界の都市形成に関する研究 ―イギリス人と日本人による都市開発の実態―」です。

考えてみれば、この研究を成し遂げるのに、6年間（2004.4～2010.2）の年月を費やしました。普通の留学生と同じように、授業料と生活費を捻出するために、修士1年生から博士課程2年生まで、私は、平日の昼間には、建築事務所でアルバイトをしていました。落ち着いて研究を出来たのは、本当に平日の夜と

週末しかなかったです。時間はアルバイトにどんどん取られた中、一層、研究の時間を貴重品と思うようになりました。それで、「限られた時間の中でどれだけの成果を上げるのか」について常に考えました。その結果、自分の集中力と効率を上げました。

博士論文を提出した際に、それほど周りの方々がおっしゃるような「達成感」はなかったです。ただ、自分が途中で諦めずに、まじめにアルバイトをしながら、研究を続けてきたことを、一生大事にしていきたいです。

最後に、多大な刺激を受けさせて頂いた大場修先生、大場研究室の諸先輩と同級生に心よりお礼を申し上げます。

『今の自分を築いた博士課程』

農学研究科生物生産環境学専攻博士後期課程
2009年9月卒 T・S

入学して以来、京都府立大には10年近く在籍し、その半分以上は大学院生として研究活動に打込んできました。博士前期後期合わせて5年という期間は、数字にしてみれば長いですが、思えばあっという間でした。

学位取得後、私は海外の研究機関に在籍し博士研究員として研究を行っています。新たな環境で新しい研究をはじめるのはなかなか大変ですが、研究を進める上での不安は感じませんでした。その理由は、京都府立大学院博士課程にて得た経験が基礎となり今の自分を支えているからです。これも偏に指導教授を始め所属研究室スタッフのおかげであると、大学から外に出ることで初めて実感することができました。研究者としての今の自分を築いたのは、まぎれもなく京都府立大学大学院博士課程での5年間であると言えます。

今後も、京都府立大にて取得した博士という学位に恥じぬよう、研究活動に取り組み成果を挙げることに努めたいと考えています。

桜楓講座（春の部）参加者募集

最近のトピックスを交えながら、本学教員がそれぞれの専門分野について分かりやすく解説します。

Aコース 5/21（金）18:15～19:45 講師：生命環境科学研究科教授 春山 洋一
「アジサイとアルミニウム ―花色の不思議を原子の目で見る―」

Bコース 6/4（金）18:15～19:45 講師：文学部准教授 小林 啓治
「原爆投下目標としての京都 ―京都から『空爆』の歴史を考える―」

詳しくは企画室までお問い合わせください。

TEL075-703-5147 FAX 075-703-5149 e-mail kikaku@kpu.ac.jp

追悼

— 京都府立大学元学長 四手井 綱英先生 —



【四手井先生のご略歴】

明治45年生まれ。京都帝国大学農学部林学科卒業。
農林省山林局や国立林業試験場勤務、京都大学農学部教授、
財団法人日本モンキーセンター所長を経て京都府立大学学長
(昭和55年9月～61年8月)、京都大学名誉教授、京都府立
大学名誉教授

■ 四手井先生のご逝去を悼む ■

学長 竹葉 剛

本学の元学長である四手井綱英先生が昨年11月26日にお亡くなりになった。

四手井先生は、1980年9月に本学学長に就任され、以後6年間、本学の発展に大きく貢献していただいた。四手井学長がリーダーシップを発揮されて実現したことは多くあるが、例えば、「京都府立大学整備基本計画」を策定し、大学院農学研究科博士課程設置、大学院生活科学研究科新設、大学院文学研究科新設（門脇禎二学長のとき実現）など大学院を拡充したこと、京都府域の総合学術調査として丹後半島、由良川流域、桂川流域、南山城地域をそれぞれ2年間継続して展開したこと、西安外国語学院（現、西安外国語大学）との教員交換制度がスタートしたこと、大学会館を新築したこと、などが記憶に残る。当時を過ごした1教員の感想で言えば、大学のもつエネルギーを束ねて外部に向けていただいた、と感じている。

四手井先生は、ご専門の森林生態学にとどまらず、動物の生態、自然保護のあり方、里山論など、幅広い学識をお持ちであった。非常に話好きで、構内や食堂で学生や教職員をつかまえては、いろいろな話を聞かせている光景が思い出される。私は当時一般教養の生物学を担当していたが、後期の始まる10月の一コマを四手井先生にお願いして講義をしてもらった。学生も大喜びで、いつも教室がいっぱいになった。6年間で6回の講義を聴かせていただいたが、生態学の講義は、自然をよく知っている先生によると、これほどおもしろくなるものか、と感服した思いであった。講義が終わってからも、話の筋道と細部とがほとんどそのまま記憶に残る講義は多くない。四手井先生の書かれた本を読まれた方は、文章の流れのよさ、分かりやすさにお気づきのことと思う。

四手井先生が本学学長を退かれた後も、本学職員OBの方たちとの交流は続き、数年前に一度入院された時には、本学同窓会のネットワークで介護の方を紹介でき、ご家族に喜んでいただいた。四手井先生ご自身の「府立大学の学長を受けてよかった」という晩年のお言葉も漏れ聞いた。

ご冥福をお祈りします。

国 際 交 流 の 取 り 組 み

国際交流の現状と将来

国際交流委員長 川田 俊成

国際交流委員会は昨年度に発足し、本学の国際交流を推進するための活動を行っています。この2年間の活動の成果の一端をご紹介します。

昨年度にはラヴァル大学、サスカチュワン大学（いずれもカナダ）、本年度にはウィーン農科大学（オーストリア共和国）、キングモンクット工科大学トンプリ校（タイ王国）と新規国際交流協定を締結し、既存の西安外国語大学、雲南農業大学（いずれも中華人民共和国）と合わせ、現在6校と国際交流協定を締結しています。

西安外国語大学とは本年度からダブルディグリーによる留学生2名の受入れを開始しました。雲南農業大学とは技術中国語演習（派遣）、夏期研修（受入れ）、毎年2名の留学生受入れなどによって相互交流を深めています。

本年度から法人本部の国際交流支援事業が開始されました。国際交流協定締結校との交流に限定されていますが、留学生・研究者・教員の受入れ、セミナーの開催などを活発に行える体制が整ってきました。

本学の卒業生を府内や国内だけでなく世界に向けて輩出することは、本学や地域に大きな利益をもたらします。一方、優秀な学生を広く世界に求め本学で大いに活躍してもらうことも重要性を増しています。国際交流もまた、成果を短期的な数値で評価することが困難な分野です。国際交流協定締結校との交流を軸に、実質的な交流を継続することが始まりだと感じます。

■ 西安外国語大学との交流

大好き！ 平安神宮エリア

西安外国語大学交換教員（文学部日本・中国文学科）梁 清邦

私が住んでいる公舎からは、平安神宮まで歩いてそんなに遠くはない。だから天気の良い日、私はよくそこへ散策に行く。そこは単なる神宮という存在ではない。まるで京都の顔、京都のショーウィンドーの一つである。春の桜、夏の夕涼み、秋の紅葉、冬の雪と、平安神宮あたりはそれぞれ違った容姿を見せてくれる。自然の力で、人間の知恵で、来た人々を魅了する。国立近代美術館、京都会館、京都市動物園、みやこメッセ、平安神宮の境内など、京都の集大成と言っても過言ではない。それらを見れば、京都の伝統、現代化、モダン、活気など、そのほとんど全部をこのエリアで感じることができる。みやこメッセの地下一階には京都伝統産業「ふれあい館」がある。そこで各種の職人が伝統の技を実演し、京都のもの作りをアピールしている。展示品には人間国宝が造ったものなども含まれており、繊細にして巧みでこだわりの工芸製品には、それぞれに作者の精魂が注がれている。日曜日には舞妓さんもパフォーマンスを披露してくれ、誰が何度行っても、きっと充実感に満たされることだろう。



七五三の日、成人の日、平安神宮の境内はカラフルな色彩に染められる。子どもの着物姿、新成人の晴れ着など、応天門の内外は実に色鮮やかであり、人間の幸せのステージへと化していく。親子連れ、あるいは大家族、観光客の集いで、賑やかにごった返す。洋風の美術館には洋画、日本画、大家展、卒業作品展などがある。じっくり絵の前に立って鑑賞したならば、心の底に何かが伝わり、癒しの空間を作り出してくれるだろう。いかにも優雅であり、日々のストレスがたちまち消え去ってしまう。同じ所だが、毎日違う格好をして、それなりの要素が交錯しあって、いつまでもフレッシュな気がする。

今日も多くの人々が平安神宮エリアへ集っている。きっといつもと同じように、いろいろな感動や喜びを人々に与えてくれるに違いない。

「日本語を機縁に深まる相互理解」

西安外国語大学派遣院生 I・T

西安での生活も半年が過ぎようとしています。改めて日本の文化を再認識させられることの多い日々です。日本語を学んでいる学生たちの日本に対する興味は幅広く、伝統文化やポップカルチャー、歴史、先端技術など、各々がさまざまなものに魅力を感じているようです。ある学生は日本の「礼儀」に興味があると言い、日本人の私が知らないような古い礼儀作法を教えてくれて、驚かされたことがありました。「日本語学科の学生はだんだん日本人らしくなる」と言われているそうですが、言葉だけでなく、文化を含めて日本という国を理解したいという想いがあるからなのでしょう。授業以外の場でも、観光やショッピングに連れ出してくれて、私にとっても中国の文化を学ぶ機会となっており、感謝しています。日本への留学を望んでいる学生も多いですが、なかなか機会に恵まれないようです。彼らの夢が現実のものとなるように、私も微力ながら力になればと思います。

■ 雲南農業大学との交流

技術中国語演習に参加して

農学部森林科学科3年生 T・Y

昨年9月10日から10日間、技術中国語演習で中国の雲南農業大学に短期留学をしました。

午前是中国語・英語・少しの日本語を交えながら雲南の自然や農業、少数民族について講義を受け、午後からは雲南農業大学内や昆明市内を農大の学生さんに案内していただきました。

中でも印象に残ったのは、雲南省の名産・普洱茶を始めとする中国茶の授業と雲南農業大学の学生さんとの交流です。中国茶については、種類の多さと、茶文化の深さに驚きました。雲南のある少数民族では、一苦二甘三味（一煎目は苦い、二煎目は甘い、三煎目は味わう）と、味を変えるお茶に人生を重ねるそうです。日本でも最近名前を知られるようになった普洱茶は、黒麹による発酵茶ということを知りました。長い期間熟成させたものほど高価で、数百年熟成させたものになると一塊、数千万円にもなるそうです。中国茶道の体験では、農大の普洱茶学科の学生さんから中国茶の入れ方を教わりました。

出発前は、中国語が伝わるかとても心配でしたが、1日もたつと中国語単語を交えて、会話ができるようになりました。農大の学生さんはみんな優しく、親切で、滞在期間中とても楽しく充実した日々を過ごすことができました。これからも、雲南農業大学と京都府立大学の関係が密で、有意義なものであって欲しいと願います。



私の留学生活

D・H

長いようで短い、あっという間に1年が過ぎてしまいました。日本に来るということは私にとって故郷を離れ、一人になるということの意味していましたが、幸いに、何でも話し合える友達もでき、先生からもよくしていただいたので、楽しく充実した1年間を過ごすことができました。

日本に来る前は日本語が全然わかりませんが、現在は大学や日本語学校で勉強しています。日本では勉強だけではなく、日本で働くということはどういうことなのか、アルバイトを通して、自分で体験することも必要だと思います。私は日本人の一生懸命働く意志と責任感にとっても感心しており、将来大変なことがあっても、頑張りたいと思いました。私は留学で修得した日本語と専門技術や知識を活かして日中両国で活躍していきたいと思っています。これも私の夢を実現するためのチャレンジです。

留学への希望

P・M

日本に来る前に、よく「心細くならない?」とか「あっちに馴染める?」と聞かれましたが、心配よりも希望のほうが大きかったので、実は自分としては楽しみにしていました。今の中国社会は競争が激しいので、大学進学や就職より、留学をして先進的な知識を勉強したほうが良いのではないかと思います。大学を卒業した後は、中国へ帰国するか、日本に残るかは自分次第ですが、やはり留学の経験があると、中国国内のみで学んでいる人たちより活躍できるのではないかと思います。私はとてもわくわくしています。

先生もクラスメートみんなもいい人なので、私は京都府立大学で勉強していて良かったと思います。

■ ウィーン農科大学との交流

短期研究滞在を振り返って

Martina Opietnik

私は昨年、京都府立大学で派遣研究員をさせていただく機会がありました。日本語はあまり上手ではありませんでしたが、研究室の皆様にとってもよくしていただき、新しい合成反応や分析方法などを学び新規化合物の合成を達成するなど、多くの成果を挙げることができました。

研究の合間や休日には、研究室のメンバーと食事をしたり、小旅行に出かけたり、外国人であることをすっかり忘れて、研究室の一員として溶け込むことが出来ました。また大学主催の外国人学生のためのツアーにも参加させていただき、銀閣寺拝観と茶道の体験を通し、日本文化に触れることが出来ました。

短い京都滞在でしたが、私にとって新しい環境での研究は、化学者としてだけでなく、一個人としても大いに向上することができた、素晴らしい経験でした。なにより京都で多くの新しい友人が出来たことは掛け替えのない財産です。



学位取得者一覧

■課程博士

【文学研究科 国文学中国文学専攻】

- ・孫 遜 （日中語彙の交流に関する研究）
- ・山本 佐和子（形容詞派生の歴史的研究）

【福祉社会学研究科 福祉社会学専攻】

- ・吉永 純 （生活保護の再検討－審査請求、行政運用、制度改革をめぐって－）

【生命環境科学研究科 環境科学専攻】

- ・飛田 国人（住宅における居住者の熱環境調節の実態に関する研究）

【人間環境科学研究科 生活環境学専攻】

- ・柴田 祥江（居住環境バリアフリー化の視点からみた高齢者の住宅の実態と評価に関する研究）
- ・陳 雲蓮（上海租界の都市形成に関する研究－イギリスと日本による都市開発の実態から－）

【人間環境科学研究科 環境情報学専攻】

- ・浅田 太郎（温度画像処理を用いた人物姿勢の3DCG表現法とその応用に関する研究）

【農学研究科 生物生産環境学専攻】

- ・田中 茂幸（Molecular biological studies on host plant basal resistance against plant fungal pathogens *Colletotrichum orbiculare* and *Magnaporthe grisea*.（植物病原糸状菌であるウリ類炭疽病菌およびイネいもち病菌に対する宿主植物基礎的抵抗性の分子生物学的研究））
- ・坂口 歩（Cellular and molecular biological studies on pathogenesis related morphogenesis in *Colletotrichum orbiculare*（ウリ類炭疽病菌の感染器官分化に関する細胞分子生物学的研究））
- ・林 竜馬（Vegetation response to past climate changes during the last glacial-interglacial cycle in the Kinki region, western Japan（近畿地方における最終間氷期以降の気候変動に対する植生の応答））

■論文博士

【農学研究科】

- ・小原 隆由（ネギの初期生育におけるヘテロシスに関する研究）
- ・木村 重光（ダイズに病原性を有する植物病原酵母のカメムシによる媒介とその様相に関する研究）
- ・三村 裕（ピーマン・トウガラシにおける青枯病抵抗性及び生育諸形質のQTL解析）
- ・和口 美明（Development of the model to predict changes in stem form for even-aged stands of Hinoki cypress (*Chamaecyparis obtusa* Endl.) based on sunny crown dimensions（陽樹冠量を基礎としたヒノキ同齢林における幹形の変化を予測する手法の開発））

トピックス

長岡京市との間で連携協力の包括協定を締結しました

本学と長岡京市は、これまでの地域振興や環境保全等に係る連携実績を踏まえ、さらに連携協力を進めるために3月12日に、長岡京市役所において包括協定を締結しました。

—協定の主な内容—

地域社会の発展、人材育成を図るために、次の事項について連携協力を行います。

- 健康・福祉の増進
- 環境保全
- 文化・教育の振興
- まちづくりの推進
- 産業の振興
- 健全な行財政の運営
- 市民参画協働の推進
- 人材の育成 など



府大広報 No.163 -卒業特集号-

〒606-8522 京都市左京区下鴨半木町1-5

京都府立大学広報委員会 2010.3.24 発行

TEL. 075-703-5147 FAX. 075-703-5149

Email kikaku@kpu.ac.jp